

「2025年度香港中文大学サマープログラム派遣参加報告書」

京都大学文学部1年 林 優一郎

私は大学入学当初から留学に行こうと考えており、実際その通り入学後最短でプログラムに参加することができました。このプログラムは大きく事前学習と本番の海外派遣に分けられると思うのですが、両方で重要だったのが積極性です。基本的に大学の講義とは異なり、参加型の授業が組まれているため、学習成果はどれだけ発言したか、に左右されます。実際私はそれによって現地の教授の研究を手伝うことにもなり、新たな道が開けたように思います。現地での経験ですが、私の持論になりますが、外国に関して本当に知るには旅行ではなく生活することが肝要だと感じました。香港での生活は日本と異なる部分も多く、本当に興味深いものでした。注文ひとつとっても日本語を使えない環境は不便ですが面白くもありました。しかし一番印象に残ったのは現地の学生との交流です。私は最初の寮の受付をしていた学生と交流する機会を得たことによって、香港の地元の人の行く店、考え方などを本格的に体験することができました。そこであった発見が、いかに英語圏以外の国であっても英語がまずコミュニケーションの端緒となることです。先述した現地の教授の研究に協力することになって経緯も私の英語運用能力でした。しかしここで難しいことは英語を使用しているのは中国語の学習を妨げる可能性もあることです。どの場面においてどの言語を使うか、選択が必要だと感じました。このプログラムを通じて私の留学したいという欲望は明確に膨れ上がったように感じます。また周りの参加者を見ても日本を出ることの面白さを噛み締めている人が多いように思います。現地での研修は本当に面白いものでしたが、プログラム全体を通じて自身の問題点を痛感することにもなりました。それは提出物や事務処理をきちんとできないことです。留学に関わるものには煩雑な手続きが多く、またそれらは期限を守らなければならないものですが、私はうまく対応することができませんでした。次の大きな課題だと思います。総じて、非常に学ぶことが多いプログラムだったと感じます。少しでも興味があるなら参加するに越したことはないでしょう。次の留学までに英語の語彙力を増やし、より込み入った話ができるようにしたいと思います。